

(19)日本特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-225941

(P2002-225941A)

(43)公開日 平成14年8月14日 (2002.8.14)

(51)Int.Cl.⁷
B 65 D 77/06

識別記号

F I
B 65 D 77/06

チーマート(参考)
E 3 E 0 6 7

審査請求 未請求 請求項の数6 O L (全4頁)

(21)出願番号 特願2001-24885(P2001-24885)

(22)出願日 平成13年1月31日 (2001.1.31)

(71)出願人 000104674

キヨーラク株式会社

京都府京都市上京区烏丸通中立売下ル櫻前
町598番地の1

(72)発明者 柏木 俊幸

東京都杉並区久我山1-12-4

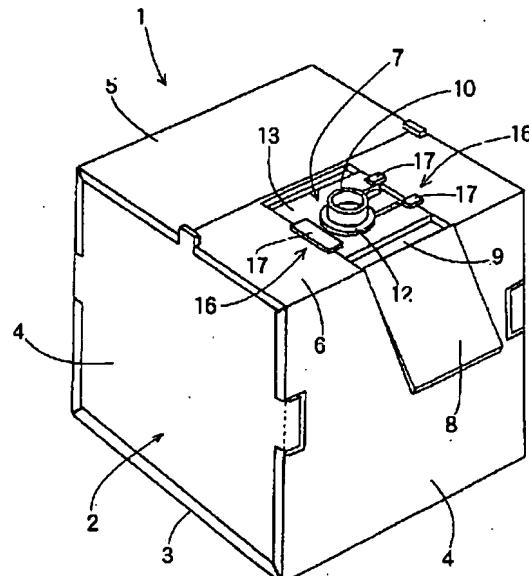
Fターム(参考) 3E067 AA30 AC01 BA05C BA06C
BA12B BB02C BB14C BC06C
EB34 EB40 EE60 FB16 FC01
GA30

(54)【発明の名称】 コンテナ

(57)【要約】

【課題】 袋体から内容物を注出すときには、袋体口具を外箱の開口部に確実に係止保持できて、内容物の注出にあたってその始めから終わりまで滞り無く確実にできるコンテナを提供する。

【解決手段】 コンテナ1は、外箱2の内部に袋体9を収納したものである。コンテナ1の蓋体6には、小開口部7を形成して開閉自在の小蓋8を備える。蓋体6の小開口部7には、袋体9の口具10に係止して小開口部7の縁部に対して係脱自在の口具保持部材13を設ける。口具保持部材13は、一方端に開口したU字状の口具挟み込み部を有する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 底壁と、底壁の各辺に起立する側壁を有し、かつ上面が開放していてその開放上面を開閉する蓋体を備えた外箱の内部に袋体を収納したコンテナであって、蓋体にはその一部に小開口部を形成して開閉自在の小蓋を備えており、蓋体の小開口部には、袋体の口具に係止して小開口部の縁部に対して係脱自在の口具保持部材を設けてあることを特徴とするコンテナ。

【請求項2】 口具保持部材は、袋体の口具の挿入孔とその係止孔とを一連に形成したものであることを特徴とする請求項1記載のコンテナ。

【請求項3】 口具保持部材は、一方端に開口したU字状の口具挟み込み部を形成したものであることを特徴とする請求項1記載のコンテナ。

【請求項4】 口具保持部材は、小開口部の縁部に対する挟み込み係止構造を有することを特徴とする請求項1、2または3記載のコンテナ。

【請求項5】 小開口部の縁部は、口具保持部材の挟み込み係止構造に対する係止案内のための傾斜面をなしていることを特徴とする請求項4記載のコンテナ。

【請求項6】 口具保持部材は、小開口部の縁部にヒンジにより連結されていることを特徴とする請求項1、2、3または4記載のコンテナ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、底壁と、底壁の各辺に起立する側壁を有し、かつ上面が開放していてその開放上面を開閉する蓋体を備えた外箱の内部に袋体を収納したバッグインコンテナに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、物品の収納や運搬等のために使用されるコンテナとして、段ボールの外箱に袋体を収納したものや、プラスチック製外箱に袋体を収納したコンテナは、実公平7-28106号公報または特開平8-207939号公報にそれぞれ記載されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところで、上記実公平7-28106号公報または特開平8-207939号公報にそれぞれ記載されているコンテナにあっては、袋体から内容物を注出する口具を外箱から常に突出させた構造となっているが、袋体から内容物を注出する口具は、衛生面または保管面などからみて使用するまでは外箱内に密閉状に収めておくのが好ましい。

【0004】しかしながら、袋体の口具を外箱内に收めた構造のものでは、使用時に袋体の口具を外箱の外に引き出しても、袋体の内容物が減少するにつれて口具が外箱内に落ち込んでしまうので、袋体から内容物を注出するうえで不都合が生じる欠点がある。

【0005】そこで、本発明の目的は、袋体の口具を外箱内に収めた構造のコンテナであっても、袋体から内容

物を注出するときには、袋体口具を外箱の開口部に確実に係止保持でき、内容物の注出にあたってその始めから終わりまで滞り無く確実にできるコンテナを提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明の請求項1に係るコンテナは、底壁と、底壁の各辺に起立する側壁を有し、かつ上面が開放していてその開放上面を開閉する蓋体を備えた外箱の内部に袋体を収納したコンテナであって、蓋体にはその一部に小開口部を形成して開閉自在の小蓋を備えており、蓋体の小開口部には、袋体の口具に係止して小開口部の縁部に対して係脱自在の口具保持部材を設けてあることを特徴とするコンテナ。

【0007】また、本発明の請求項2に係るコンテナは、請求項1記載の構成において、口具保持部材は、袋体の口具の挿入孔とその係止孔とを一連に形成したものであることを特徴とするものである。

【0008】本発明の請求項3に係るコンテナは、請求項1記載の構成において、口具保持部材は、一方端に開口したU字状の口具挟み込み部を形成したものであることを特徴とするものである。

【0009】本発明の請求項4に係るコンテナは、請求項1、2または3記載の構成において、口具保持部材は、小開口部の縁部に対する挟み込み係止構造を有することを特徴とするものである。

【0010】本発明の請求項5に係るコンテナは、請求項4記載の構成において、小開口部の縁部は、口具保持部材の挟み込み係止構造に対する係止案内のための傾斜面をなしていることを特徴とするものである。

【0011】本発明の請求項6に係るコンテナは、請求項1、2、3または4記載の構成において、口具保持部材は、小開口部の縁部にヒンジにより連結されていることを特徴とするものである。

【0012】

【発明の実施の形態】図1は本発明の一実施の形態に係るコンテナの全体斜視図であって、袋体の口具を蓋体の小開口部に係止した態様を示す。図2は袋体の口具に口具保持部材を取り付ける前の態様を示すコンテナの全体斜視図である。図3は口具保持部材の平面図、図4は同上縦断正面図、図5は袋体の口具に口具保持部材を取り付けて蓋体の小開口部に係止するに至る態様を示す縦断正面図、図6は袋体の口具に口具保持部材を取り付けて蓋体の小開口部に係止した態様を示す縦断正面図である。図7は口具保持部材の他の実施形態を示す平面図である。

【0013】1は本発明に係るコンテナであり、2はその外箱である。外箱2は、底壁3の各辺にヒンジによって起倒自在に連結された4つの側壁4を有し、その側壁4を起立させて互いに係合することにより箱状に形成される。外箱2の上面は開放していて、その開放上面は2

つの蓋体5、6により各半分ずつ開閉自在となっている。

【0014】すなわち、開放上面の一端縁を形成する奥側の側壁4の上端縁には、開放上面の半分を開閉する蓋体5がヒンジ(図示せず)によって連結されており、開放上面の他端縁を形成する手前側の側壁4の上端縁には、開放上面の半分を開閉する蓋体6がヒンジ(図示せず)によって連結されている。また、上記蓋体6には、その一部に小開口部7が形成されており、小開口部7には、蓋体6のヒンジ側をヒンジとして上方に開く小蓋8が設けてある。

【0015】9は袋体であって、外箱2に収納されており、袋体9は内容物を注入し、また内容物を注出するための口具10を備えている。口具10の口端側外周にはキャップまたは注出コック(図示せず)を装着するための雄ネジ11が形成されており、基部側には鉗状部12が形成されている。

【0016】13は口具保持部材である。この口具保持部材13は、板状のものであって一方端に開口したU字状の口具挟み込み部14を有し、かつ口具挟み込み部14に口具10の基部と鉗状部12との間に噛み込ませる係止部15、15を形成したものであり、口具保持部材13は、蓋体5の小開口部7の縁部に対する挟み込み係止構造16、16を有している。17はその上側のラッチ、かつ18は下側のラッチである。また、小開口部7の縁部は、口具保持部材13の挟み込み係止構造16、16に対する係止案内のための傾斜面19、19をなしでいる。U字状をなす口具挟み込み部14には、その閉じ側寄りに口具10に対する係止凸部20、20が形成されている。なお、図示しないが、口具保持部材は小開口部7の縁部にヒンジにより一体に連結した構成とすることができる。

【0017】本発明に係る口具保持部材13は、図7に示すように構成することができる。この実施の形態のものにあっては、口具10の挿入孔21と、口具10の係止孔22とを一連に形成したものであり、挿入孔21から係止孔22に至る部位には口具10の係止凸部23、23が形成されている。なお、その他の構成は図3に示したものと同等である。

【0018】本発明に係るコンテナ1においては、内容物を収納した袋体9は外箱1内に収納して蓋体5、6を閉じ、外箱1を密閉状にして輸送し、保管する。そして、使用時においては、蓋体6を開いて(必要に応じて蓋体5も開いて)袋体9の口具10に口具保持部材13を取り付けたうえ、蓋体6を閉じ(蓋体5を開いた場合はそれも閉じ)、次いで蓋体6の小蓋8を開いて、口具13に取り付けた口具保持部材13を、その一端と他端の係止構造16、16の上下のラッチ17、18により、図5および図6に示すように小開口部7の縁部に係止すれば、袋体9の口具10を小開口部7に係止保持して、

袋体9の内容物が減少してもその口具10が外箱1内に落ち込まないようにすることができる。

【0019】袋体9から内容物を一部だけ注出して、口具10を再び外箱1内に収めておく場合は、口具保持部材13を小開口部7から外して小蓋8を閉じておけばよい。

【0020】なお、図示のものは本発明の好適な実施の形態であるが、本発明はこれに限定されるものではなく、請求項に記載した技術的範囲を逸脱しない範囲で種々の実施の形態とすることができるものである。

【0021】

【発明の効果】本発明によれば、袋体の口具を外箱内に収めた構造のコンテナであっても、袋体から内容物を注出するときには、袋体口具を外箱の開口部に確実に係止保持できて、内容物の注出にあたってその始めから終わりまで滞り無く確実にできるコンテナが得られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施の形態に係るコンテナの全体斜視図であって、袋体の口具を蓋体の小開口部に係止した態様を示す。

【図2】袋体の口具に口具保持部材を取り付ける前の態様を示すコンテナの全体斜視図である。

【図3】口具保持部材の平面図である。

【図4】口具保持部材の縦断正面図である。

【図5】袋体の口具に口具保持部材を取り付けて蓋体の小開口部に係止するに至る態様を示す縦断正面図である。

【図6】袋体の口具に口具保持部材を取り付けて蓋体の小開口部に係止した態様を示す縦断正面図である。

【図7】口具保持部材の他の実施形態を示す平面図である。

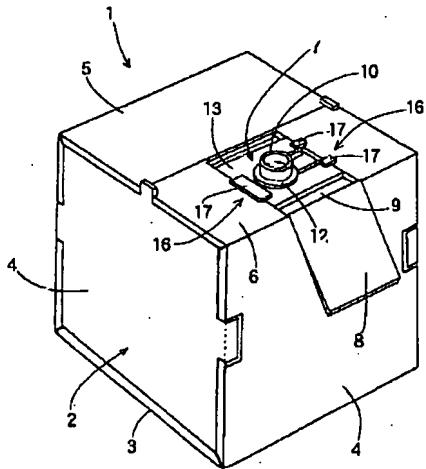
【符号の説明】

- 1 コンテナ
- 2 外箱
- 3 底壁
- 4 側壁
- 5, 6 蓋体
- 7 小開口部
- 8 小蓋
- 9 袋体
- 10 口具
- 11 雄ネジ
- 12 鉗状部
- 13 口具保持部材
- 14 口具挟み込み部
- 15, 15 係止部
- 16, 16 挟み込み係止構造
- 17 上側のラッチ
- 18 下側のラッチ
- 19, 19 傾斜面

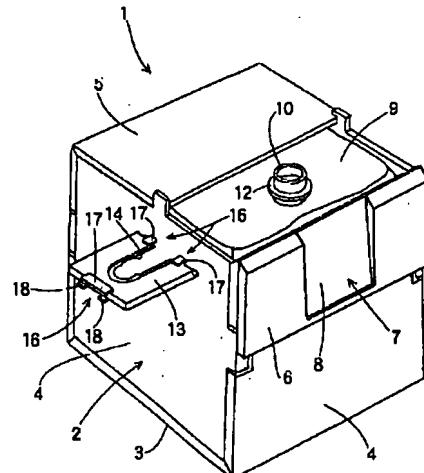
20, 20 係止凸部
21 挿入孔

22 係止孔
23, 23 係止凸部

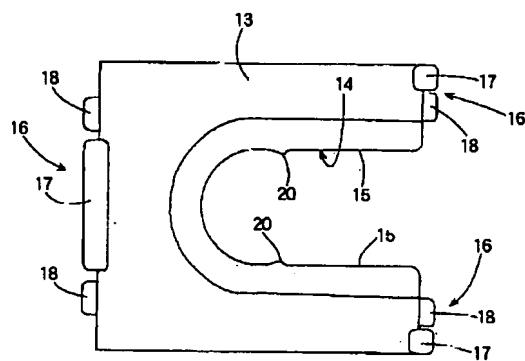
【図1】



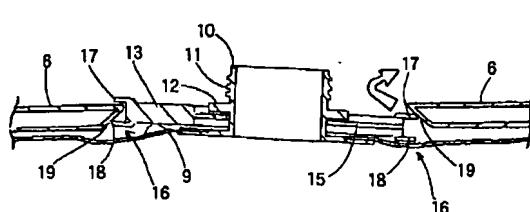
【図2】



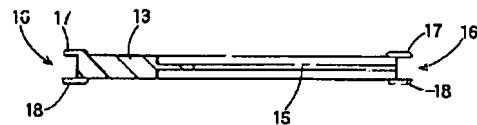
【図3】



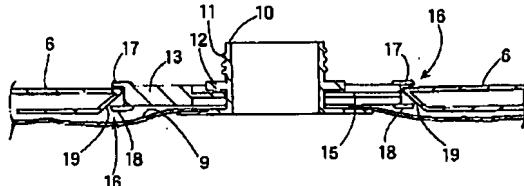
【図5】



【図4】



【図6】



【図7】

